

財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

平成23年度事業報告

基本方針(基本理念の実現に向けて)

- ◆平成23年3月11日に発生した東日本大震災と東京電力福島第1原子力発電所事故により、福島県内の森林の価値は、それ以前と比較し大きく変化しました。すなわち、人間生活に優しく、役に立つ森林から、放射能物質に汚染された触れること、立ち入ることのできない森林への変化である。このことは、ふくしま県民の森という森林公園を活用しながら森林との共生を実現するという当財団運営にとり、きわめて厳しい社会環境となったことを意味した。
- ◆しかし、このような状況の中、これまで以上に「人が安心して森林と関われる場(子どもが安心して遊べる場)」の確保が求められることから、財団の理念を実現させるためにも、ふくしま県民の森に多くの人をお呼びし、森林の持つ機能や当施設の特色を活かすことで「ふくしま復興支援」を実現することを基本方針とした。

指定管理者としての「ふくしま県民の森」の管理運営

- ◆大震災による損傷等からの復旧を行うとともに、原発事故による風評被害(空間放射線量の上昇による)の軽減化に努める運営を行った。
- ◆併せて、施設の利用要望にいつでも応えられるよう施設管理に努めた。

■県委託料による施設・緑地管理

- ▽東日本大震災による施設損傷への対応
 - ◆県民の森浄化槽流入柵の修繕
 - ◆一部が陥没した第1広場、第2広場の利用制限
 - ◆水源からの取水量減少による、ユースキャンプ場の利用制限
- ▽原発事故の影響等による対応
 - ◆森林をはじめとする各施設の放射線量の定期測定と一般への公表

■オートキャンプ場利用料金による施設管理

- ▽東日本大震災による施設損傷への対応
 - ◆ビジターセンター:給湯ボイラーの修繕、ショップ冷蔵庫の修繕、ロビー大窓鍵の修繕
 - ◆コテージ:ガスヒーター修繕、大窓ゆがみ・鍵の修繕、薪ストーブ煙突の修繕
 - ◆常設トレーラー:ガス器具の修繕
 - ◆ビューデッキ:倒壊による利用制限の実施
 - ◆テントサイト:一部サテライトハウスの利用制限の実施
- ▽原発事故の影響等による対応
 - ◆利用各施設における放射線量の定期測定と一般への公表
 - ◆一部テントサイトの除染

▽施設の高規格化、老朽化等への対応

- ◆コテージ:ロールカーテン更新、障子窓枠更新、畳の入れ替え、除湿器導入、薪ストーブのガラス窓更新等
- ◆温泉:露天風呂目隠し板設置、サウナ室板材交換、サウナ電気設備修繕、温泉ポンプ交換(県工事)
- ◆ビジターセンター:光回線(ブロードバンド)導入、無線LAN設置
- ◆常設トレーラー:空気清浄機導入、エアコン交換(一部)

■フォレスト・エコ・ライフ推進の事業

▽森林学習施設区域の運営

- ◆過去2年間では、福島県による森林環境税の導入により、森林学習区域の利用は増加傾向となっていたが、原発事故の影響により、教育活動などで野外生活の制限がなされた結果、施設全体や森林館利用、学校団体利用のいずれもが大幅に落ち込んだ。
- ◆なお、H24年1月～3月にかけては、積雪のため施設内の空間線量が低下し、学校利用が増加した。

年度	目標値(人)	実績(人)	達成率(%)
平成21年度	172,600	151,364	87.7%
平成22年度	174,400	158,433	90.8%
平成23年度	176,200	8,352	4.7%

森林学習施設区域全

体の利用者 単位:人

年度	目標値(人)	実績(人)	達成度(%)
平成21年度	12,070	11,215	92.9%
平成22年度	12,180	12,792	105.0%
平成23年度	12,290	2,308	18.8%

◆森林館の利用者 単位:人

◆学校団体利用者数 単位:人

年度	目標値 (人)	実績 (人)	達成度 (%)
平成21年度	7,640	8,724	114.2%
平成22年度	7,780	10,353	133.1%
平成23年度	7,930	2,534	32.0%

▽オートキャンプ場の運営

- ◆原発事故の影響により、宿泊利用、日帰り利用ともに、トップシーズンである夏場の利用が、前年比の約28%と大幅に減少した。また、積雪のあった H24 年 1 月～ 3 月を除くと、子ども利用の減少が目立った。
- ◆日帰り温泉利用については、中通りを中心とした隣接地からの利用が多く、年齢層も比較的高いため、原発事故の影響は比較的軽微であった。
- ◆財団主催のイベントプログラムへの参加者は、オートキャンプ場の子ども利用が減少したことから、前年比約26%と大幅に落ち込んだ。
- ◆オートキャンプ場は、利用料金收受方式での運営を行っており、利用者数の増減が施設運営に大きな影響を与える。平成 23 年度では、大震災や原発事故の影響で、通常の施設利用者(宿泊・温泉利用)は、前年比約55%と大幅に減少した。
- ◆一方、原発事故に伴い、双葉郡富岡町より多くの方々が大玉村に避難され、当施設でも大玉村災害対策本部と連携し、約 100 名の富岡町民をコテージ 20 棟でお引き受けした(3/28～7/7)。その際の施設利用料金は、避難所運営費として福島県から入金された。また、風評被害にかかる営業損失については、東京電力より損害賠償金として入金された。
- ◆オートキャンプ場の利用収入

原発事故による避難所収入があったことから、オートキャンプ場利用収入は、昨年度を上回った。

	オートキャンプ場 利用収入 (日帰り温泉収入含む 単位:千円)	備考
H21年度	82,352	消費税込み
H22年度	71,029	消費税込み
H23年度	75,272	内 一般利用収入:36,440 避難所収入:38,832

◆オートキャンプ場の利用者(大人+小人) 単位:人

年度	目標値(人)	実績(人)	達成度(%)
平成21年度	32,480	32,549	100.2%
平成22年度	32,650	29,241	89.6%
平成23年度	32,830	13,556	41.3%

◆温泉施設の利用者 単位:人

年度	目標値(人)	実績(人)	達成度(%)
平成21年度	14,260	12,806	89.8%
平成22年度	14,330	11,683	81.5%
平成23年度	14,400	9,760	67.8%

◆イベント・プログラムの参加者 単位:人

年度	実績(人)	対前年度比(%)
平成21年度	7,256	103.5%
平成22年度	6,643	91.6%
平成23年度	1,698	25.6%

受託事業の実施

■ もりの案内人養成講座運営業務

- ◆ 東日本大震災及び原発事故により、事業(福島県)そのものが中止となったため、受託せず。

■ 森林ボランティアサポートセンター開設業務

▽委託者:福島県(森林保全課)

- ◆ 東日本大震災及び原発事故により、上半期(4月～9月)の事業は休止。下半期(10月～3月)の限定で事業を受託した(福島県)。

▽実施期間:平成23年10月1日～平成24年3月31日

▽実施内容:

- ◆ 震災及び原発事故が、県内の森林ボランティア活動にどのような影響を与えたのかをリサーチし、併せて森林ボランティアの活動状況を把握するため、アンケート調査を行った。
- ◆ アンケート結果に基づき、森林づくり情報誌(森ボラ新聞)を発行した。
- ◆ ホームページを新たに開設し、情報の提供を行った。
- ◆ 電話、来訪者、fax、メールによる各種相談への対応を行った。

■ 鳥獣保護センター管理受託事業

▽委託者:福島県(自然保護課)

▽実施期間:平成23年4月1日～平成24年3月31日

▽実施内容:野生鳥獣傷病鳥獣の救護活動実績

単位:頭・羽

年度	当該年度末飼育数	当該年度収容数	当該年度野生復帰数	当該年度死亡数
平成21年度	111	262	71	171
平成22年度	102	270	83	196
平成23年度	87	238	77	176

■ ふくしま森林文化継承事業

- ◆ 東日本大震災及び原発事故により、事業(福島県)そのものが中止となったため、受託せず。

■ 福島県緊急雇用創出基金事業

▽委託者:福島県(森林保全課)

- ◆ 「ふくしま県民の森景観整備業務」として受託。

▽実施期間:平成23年4月25日～12月28日

▽実施内容:

- ◆期間中、3人を120日間雇用し、ふくしま県民の森の景観を向上するよう、林内の下草刈り、除伐等を行った。

■企業の社会貢献事業

- ▽委託者:イオングループ<イオンリテール(株)、マックスバリュ南東北(株)、イオンスーパーセンター(株)>
- ▽実施期間:平成23年9月20日～12月20日
- ▽実施内容:
 - ◆期間中、ふくしま県民の森の敷地内において、森林活動が行いやすくなるよう、林内の下草刈り、除伐等を行った。

自主事業の実施

■ふくしま復興支援事業

- ◆東日本大震災並びに原発事故で多大な被害を受けた福島県の復興を支援するため、年度当初は計画されていなかった事業を実施した。
- ◆浜通り地域からの避難者を施設で受け入れ、仮設住宅へ移られて以降は、生活支援を行った。
- ◆疲弊している福島県民の心や福島経済活動を活性化させるため、財団独自の復興支援特別割引を行い、県内外からの施設利用を促進させた。
- ◆オートキャンプ用品メーカーからの申し出を受け、復興支援キャンプ大会の受け入れを行い、県外からの誘客につとめた。
- ◆オートキャンプ場利用の方々や、ショップカフェ利用の方々、イベントプログラム参加の方々、イベント等に協賛されたの方々などからの寄付をいただき、財団からの寄付も併せて義援金として地元新聞社へお渡しした。
- ▽避難所(富岡町)として施設提供(4月1日～7月7日)
- ▽ふくしま復興支援特別割引の実施、提供(9月1日～3月31日)
- ▽県民向け温泉無料提供(4月8日～4月15日)
- ▽避難者等への温泉無料提供(～7月31日)
- ▽支援イベントなどの開催、共催
 - ◆蕎麦打ちイベント(4月16日実施、参加者35名)
 - ◆スノーピーク福島復興支援キャンプ大会(5月21日～5月22日実施、参加者70名)
 - ◆チェロ演奏会開催(6月24日実施、参加者15名)
 - ◆日本フィル演奏会開催(6月26日実施、参加者28名)
 - ◆灯明作り(8月6日～8月7日実施、参加者85名)
 - ◆スノーピーク仙台 キャンプイベント(10月8日～10月9日実施、参加者16組 38名)
- ▽キッズスペース(ビジターセンター・レクチャーホール)開設、無料提供(7月～)
- ▽ふくしまっ子支援事業 受け入れ(7月～3月、29件、1,100名利用)
- ▽子どもの外遊び支援事業 受け入れ(12月～3月、5件、184名利用)

▽富岡町仮設住宅向け 温泉入浴無料提供 (12月21日～ 月1回)

▽義援金募金活動の実施 (～3月14日、計40万円)

◆福島民報社、福島民友新聞社へ

■環境教育事業

◆数年来継続している環境教育事業については、原発事故の影響で、参加予定の子どもたちが減少したり、また、放射線の影響が比較的軽微な場所へ移っての実施となり、前年に比べ参加者数は減少した。

◆白河市からは、平成23年3月に開園させた「南湖森林公園」の管理者養成、管理支援者養成のための研修会開催を依頼され、財団独自でプログラムの企画立案や講師派遣を行った。

▽森のようちえん

◆主催: NPO こどもの森ネットワーク、(財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

◆開催日:平成23年4月19日、12月23日～24日

▽あだたら生物クラブ

◆主催: NPO わかば自然楽校、福島市小鳥の森、(財)ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団

◆開催日:平成23年10月30日、平成24年2月26日

▽講師派遣事業

◆白河市南湖森林公園 森林環境学習指導者育成講座 11科目

開催日:平成23年6月15日、6月23日、7月13日、9月9日、10月6日、10月20日、11月8日、11月22日

◆ふくしま自治研修センター H23年度新規採用職員研修 講師

開催日:平成23年11月11日

◆福島大学「キャリアモデル学習」 講師

◆開催日:平成23年6月9日

▽広報活動

◆テレビ、ラジオ、情報誌、ネットなど47件の取材、掲載

◆当財団ホームページにおいて、あだたら日記をはじめとする情報提供

■調査・研究事業

▽自然環境基礎調査事業

◆福島大学共生システム理工学類 塘研究室による人工池を利用した生態系調査研究

◆福島大学共生システム理工学類研究生による研究成果発表会 開催 (12月18日)

■FEL 会員制度

◆原発事故の影響により、会員の更新、新規登録ともに減少し、前年度比約3割の会員数となった。

■物品販売・貸付・カフェ事業

- ◆収益事業であるショップでの物販販売やオートキャンプ用品のレンタル(貸付)、カフェでの飲食の提供では、オートキャンプ場利用者の減少や、県内外の景気後退などの影響で、以前に比べ大幅な収入減となった。

▽事業収入

- ◆単位:千円(H21・22年度分は、H23年度との比較のため税込み処理済み)

	ショップ売上(物品販売) 千円	カフェ売上 千円	物品貸付(レンタル) 千円
H21年度	13,115	2,213	4,351
H22年度	11,677	2,381	4,029
H23年度	6,785	884	2,195

■地域振興と社会貢献事業

- ◆二本松信用金庫からの寄付金による図書コーナー(ビジターセンター)の充実
- ◆福島県立二本松工業高校から4名のインターンシップ受け入れ(9月6日～8日)
- ◆福島県立安達高校から1名のインターンシップ受け入れ(1月11日～13日)
- ◆大玉村災害対策本部との連携による、原発避難者(富岡町)の受け入れ
- ◆安達地域にある民間企業と連携し、海外から施設利用者を受け入れた。(11月2日～16日、25名)

■公益法人改革

- ◆東日本大震災および東電福島第一原発事故により、申請を1年間延期